

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク



2025 年度事業計画書

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

目次

2025 年度 事業計画にあたって	2
(予定事業一覧)	
組織基盤強化事業.....	4
NPO 等団体活動支援事業	4
情報発信支援事業.....	5
たんたんフードバンク事業.....	6
孤立・孤独者への対策	7
多文化共生とまちづくり.....	9
防災支援及びモデル避難所拠点づくり事業	10
組織概要.....	12

2025 年度 事業計画にあたって

1. 本年度の基本方針

2010 年 6 月 9 日、NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワークを設立して以来、①NPO 法人等ネットワーク構築・活動支援事業 ②人づくり事業 ③地域デザイン(収益事業)などを軸に、人と人、団体と団体(NPO、地域、企業、行政、大学など)のネットワークを構築することにより、京都丹波・丹後地域の活性化をめざし、活動を始めてから今年度で 15 年目を迎えました。

次々と物の値段が上がり、米に至っては 2 倍の価格になる中で、生活が厳しいと感じる人が世代を問わず増加しています。コロナ禍における経済的支援を目的に2021年12月から始めたフードバンクは、物価高でますます厳しい生活を余儀なくされている制度の狭間に生きる人たちが孤立することのないよう、それぞれの状況を確認しながら課題にあった支援を実施するよう努めています。

また、株式会社さとう様、おてらおやつくらぶ様、福知山社会福祉協議会様、チャリティーサンタ様などからのご協力により、新たな団体・人と繋がる大きな一歩を踏み出せたのではないかと考えています。多文化共生事業は福知山市との連携事業が最終年を迎える中、終了後の多文化共生推進のまちづくりを見据えて検討を重ね、誰もが支え合い、協力し合える社会を目指し、活動を進めているところです。

2025 年度は、物価高にどのように寄り添うか、ともに協力し合える関係性を人・団体と作れるか、中間支援としての役割・機能を福祉の場に活かすための体制構築を行い、その成果を多様な形で発信するとともに、社会的な価値の創出に取り組むことを基本方針として運営していきたいと考えています。

2. 2025年度スローガン

支援から共生、共生から共創へ

3. 重点項目

当NPOの基盤強化(案)

- 地域のハブとしての役割強化
- 他機関・人との連携強化
- 人材のスキルアップ

未来のまちづくり支援

- たんたんフードバンク・フードパントリー…たんたんフードバンクを発展させ、食糧以外にも生活用品、文房具、本などの支援も実施し、当事者のニーズに合ったマッチングバンクにする <株式会社さとう、特定非営利活動法人おてらおやつクラブ、NPO 法人チャリティーサンタ、きょうとフードセンター等協力>
- 多文化共生(共創)…今後増加する在住外国人に対する支援の質を高め、暮らしやすい地域にし、未来のまちづくりに繋げる⇒<福知山市提案型公共サービス民営化制度 福知山市国際交流事業運營業務(～

2025.3)助成金額 1,705,000 円を予定＞<ろうきん(笑顔プラス)寄附金 200,000 円を予定＞により実施

- 防災…<真如苑 防災・減災助成 連携と工夫とICT 活用による避難所システム構築事業(2024 年 8 月～2025 年 7 月)500,000 円> <修学院児童館 つながる防災プロジェクト支援 150,000 円>により昨年度から継続実施
- 孤立・孤独…孤立する外国籍や外国にルーツのある親子、高齢者や家庭に何らかの課題を抱える親子、単独世帯などの様々な居場所づくり⇒赤い羽根共同募金<「居場所を失った人への緊急活動応援助成」第11 回に助成金額約 2,000,000 円で応募予定>
- たんたん X 交差点…「地域」を様々な視点から学び、未来のまちづくりを多様な主体が共に考え行動に結び付けられるようなまちづくり講座を復活開催

①組織基盤強化事業

具体的な組織課題の解決、組織運営を改善するための組織基盤強化に取り組むため、中期ビジョン・単年度計画に沿って、活動の持続発展、社会課題の解決促進、社会変革に向け、誰もが生き生きとくらす共生社会を目指す。

②NPO 等団体活動支援事業

NPO等支援(NPO 法人、自治会、市町村等)

⇒組織や運営を見直し、それぞれのミッション達成、地域活性化へ

・NPO 活動分析・アドバイス等支援事業

内容：NPO からの依頼を受けて、年間を通して活動の分析・アドバイス等を行う。

・災害時連携NPO等ネットワーク実行委員会メンバーとしての活動

活動趣旨 近年京都府でも増加傾向にある自然災害による被害に対応し、NPO 等が有する高度な専門性や豊富な現場経験を活かし、被災地で個別具体的かつ中長期的な復興支援活動ができる連絡・派遣の仕組み「災害時連携NPO等ネットワーク」の充実を図る。

活動内容 趣旨を理解していただき、市民や団体に参加を呼びかける

※ 「災害時連携NPO等ネットワーク」の充実を図るため、会議への参加

※ 京都北部独自の取り組み

・その他支援事業

- Web ページ及び Facebook ページによるNPO等向け情報発信
- NPO 法改正に伴う支援
- 助成金・給付金等申請・報告支援
- 会計・収支報告等支援
- マネジメント支援
- 人・団体・企業・大学・行政等とのネットワークづくり
- 必要な情報の多言語化(多言語化の要請)

③情報発信支援事業(収益事業)

1 事業の趣旨・特徴

事業への思い

地域(企業)情報やコンテンツをデザインし、京都北部の情報発信力を高め、魅力ある発信を行うことにより、住みやすい地域をつくり、地域経済の活性化を促す。

さらに、地域と団体、企業等をつなぎ、コーディネートすることにより、京都北部が一体となった活性化を進める支援を行う。

事業背景

【京都北部の課題と事業の背景】

京都北部は海と山を兼ね備えた素晴らしい地域であるが、地域をデザインする能力、発信する能力の不足などから、地域自体もその魅力をどのように活かせばよいのかわからず、京都北部の魅力を伝えきれていない。

また、企業においては中小零細企業が中心であるため、せっかく情報発信ツールとしてのHPを持っていたとしても、活用・更新されないままであったり、スマホ対応されていないなど、現状に即さないものが多く見受けられ、新たな顧客の獲得や有能な人材の確保、他地域への魅力発信がうまくなされていない。

とりわけ、NPO にあっては HP などの情報発信手段を持たないところも多く、素晴らしい活動をしている、それを利用者などに知ってもらえないケースが数多く見受けられる。

特に福祉関係や人権などの NPO については、活動が知られていないために利用機会を失い、利用者の命を左右することも多く、今後行政の財源や職員数が減少していくことを考えると、一つひとつの活動を周知することはとても重要になってくる。

2 事業の概要等

●地元企業・団体応援のためのトータルデザイン

- HPやSNSをそれぞれの特徴を生かし、うまく活用することで、団体の活動内容や魅力を発信、あるいは企業の顧客獲得、人材確保等につながるよう、①コンテンツの内容(何を誰に何のために発信したいのかなど) ②更新のしやすさ ③SNSとの連動 ④スマホ対応 ⑤魅力あるデザインを考えて、利用者・顧客目線のHPやFB ページ、ちらし等を作成
- 企業や活動団体の要望に応じた SNS 等講座を実施(zoom 活用、オンラインでのファシリテート等)

●継続中の事業及び新規事業予定

- ①舞鶴市ホームページ保守契約(年間 120,000 円) ②井上株式会社ホームページ保守契約(年間 105,600 円程度) ③福知山市社会福祉協議会ホームページ制作 ④あやべ特産館 絵葉書販売など

④たんたんフードバンク事業(見守り・傾聴・支援)

予算: 赤い羽根(福知山市社会福祉協議会)150,000 円 赤い羽根(京都府社会福祉協議会)425,000 円

協力企業等: 株式会社さとう、特定非営利活動法人おてらおやつクラブ、NPO 法人チャリティーサンタ、きょうとフードセンター、福知山市社協

1 事業の趣旨・特徴

事業への想い・背景

物価高騰(特に米の高騰)により、経済的支援の必要な家庭や孤立を防ぐ必要のある人が増えており、食糧支援だけでなく、当事者のニーズと支援をつなぐ事業に発展させ、対象をシングルマザー、シングルファザー、大学生、高齢者等へ広げていく必要性がある。また、子ども食堂やフリースクールなどの団体と連携し、寄付物品の活用をさらに充実したものにする。

2 事業の概要等

- ・ 目的: 食料支援を通して、傾聴・見守りを行い、それぞれが抱える問題・困りごと等を引き出し、支援につなげる
- ・ 目標: どのような課題にも対応できるよう連携先をふやすこと 支援者側のスキルアップ
- ・ 支援対象者(個人): ①外国籍・外国にルーツのある家庭 ②ひとり親家庭 ③子どもの多い家庭 ④失業中の人 ⑤その他一人暮らしの大学生・高齢者等のうち、生活が厳しい家庭
- ・ 支援・連携団体: 子ども食堂、フリースクール、母子寡婦福祉会、民生委員など
- ・ 寄附の公募方法: 当 NPO のホームページ、SNS など
- ・ 配布希望の受付: 当 NPO のホームページ、電話、相談のあった家庭など
- ・ 配布方法: ボランティア、アルバイトの他、連携団体

特定非営利活動法人 京都丹波・丹後ネットワークホームページアドレス

<http://kyoto-tantan.net/>

<http://kyoto-tantan.net/foodbank/> (フードバンク・フードパントリーページ)

⑤孤立・孤独者への対策

予算: 赤い羽根共同募金<「居場所を失った人への緊急活動応援助成」第11回に助成金額約 2,000,000 円で応募予定>

1 事業の趣旨・特徴

事業背景及び必要性

<背景>

あらゆる世代において孤独・孤立する人や居場所を失った人たちが増加傾向にある。そのような状況であるにもかかわらず、これまではどのような団体がどのような活動をされているのかを把握しておらず、連携がほとんどとれていなかった。

<目的と課題>

活動の目的は、きちんとつながり、「助けて」と言える社会にするため、“生きづらさ、孤独・孤立、している人びとにまずは声をかけ、きっかけをつくり、寄り添い、本質的な課題をつきとめ、求めているニーズに応えていく体制を構築していくことである。

これまではひとり親家庭、外国ルーツの子どもがいる家庭を中心にフードバンク事業を展開していたが、一団体で実施できることには限りがあり、同じ地域で子ども食堂や虐待防止、フリースクールなどを実施されている他団体との連携は不可欠である。

2 事業の概要等

- 連絡体制の強化
- 助成金情報など、必要な情報の共有
- 寄付の品などを互いに利用できるようにするシステム
- イベント(交流会や防災など)の共同実施
- 定期的な連絡会

⑥多文化共生とまちづくり

予算:①福知山市業務委託(福知山市国際交流事業運営業務2年目)約1,705,000円の見込み
③ろうきん(笑顔プラス)寄附金 200,000円+α 予定

1 事業の趣旨・特徴

事業への思い

まちづくりを推進していくためには、様々な人が集まり、情報を共有し合い、話し合う場が必要となる。

特に外国人や世代・立場の違う者が交流する場を持つことはとても難しい。

そういった場を創出することで、孤立する人を減らし、誰もが暮らしやすい地域をつくるために、すべての人が自分ごととして未来のまちづくりを考え行動する地域にしていきたい。

2 事業の概要等

●外国人及び外国にルーツのある人達への支援

【概要】

- ・ 見守り・傾聴及び食料等の支援
- ・ 交流の場づくり
- ・ 情報の支援と多言語化
- ・ 外国ルーツの人たちが抱える課題の可視化と解決方法の模索

●まちづくりとしての多文化共生

【概要】

- ・ 多様な人々との交流
- ・ 外国人を雇用する企業との連携
- ・ 専門家を交えたまちづくりの方向性
- ・ 多様な組織(行政機関・学校・他の支援団体等)との連携

●「たんたん×交差点」まちづくり講座&交流

【概要】まちづくりに関するテーマを設定し、専門の講師をお招きして講座を開催。前半は講座、後半は参加者で食事を取りながら交流。状況に応じてオンライン講座等で対応。

●市民・活動団体等のための各種講座

【概要】 zoom 講座、ファシリテーション講座、SNS 講座(活動団体からの依頼)、認知症サポーター養成講座、認知症予防講座(コグニサイズ)などを予定

⑦防災支援及び

モデル避難所拠点づくり・運営・訓練実施事業

予算:①真如苑 防災・減災助成 連携と工夫とICT活用による避難所システム構築事業(2024年8月～2025年7月)500,000円 ②修学院児童館 つながる防災プロジェクト支援 150,000円

1 事業の趣旨・特徴

事業背景及び必要性

京都北部では毎年のように自然災害が発生し、避難勧告・避難指示が出されることも頻繁にあり、避難される方の中には介護が必要な高齢者や障害者、外国人などが含まれる。日常的にその人たちを支援するNPOも存在するが、災害時にはそれらのNPOも被災する可能性があり、復興できなければ時には命にかかわるようなケースも出てくる。そこで、災害が起きても事業・業務を継続し、NPOと地域が連携する仕組みを双方が作っておくことにより、災害発生後の地域コミュニティの継続、再生につながる。

一方、防災意識には個人差が大きく、意識の低い者にまずは興味を持ってもらうことが必要であり、そのような仕組みづくりも大きな課題の一つである。

(目的)避難所自体は行政が設置するにしても、その運営は地域の人やボランティアが担う必要があり、高齢者や子ども、障害を持つ人等誰もが安心・安全に避難できる場として避難所を運営するために、多様な人が興味を持って参加してもらえるような機会を作っていくことを目的とする。

2 事業の概要等

連携と工夫とICT活用による避難所システム構築事業

●ICT活用によるオフライン時の避難所名簿作り・ニーズ把握リストづくり

【概要】

システムの構築と試行

●避難所のトイレについての検討

【概要】

トイレの設置場所、子ども・女性・高齢者・障害のある人などに配慮したトイレ

●講演会の実施

【概要】

過去の災害から学ぶ避難所運営に必要な準備

つながる防災プロジェクト支援(修学院児童館)

【概要】

子どもたちが楽しみながら学べる防災のアドバイス→防災食づくり、まちあるきマップなど

3 事業の進捗と今後の予定

オフライン時のシステム構築などは4月から本格的に始動予定

トイレについては防災士等のアドバイスを参考に検討を予定

講演の時期については講師との打ち合わせの上決定

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク組織概要

会員・寄付金

正会員(1口 1,000 円) 18 名

寄附目標 1,000,000 円

役員体制

戦略的役員会(理事会、執行理事会など)を年数回開催することにより、それぞれの事業をより質の高いものとして、他機関などとの連携も進めていく。

事務局体制

当 NPO の副理事長が事務局長として通年勤務。他 NPO スタッフとして4名体制で活動。必要あるときはアルバイトを雇用又は他の理事・会員に呼びかけ、もしくはボランティアを募集する。

<新体制の組織図イメージ>

